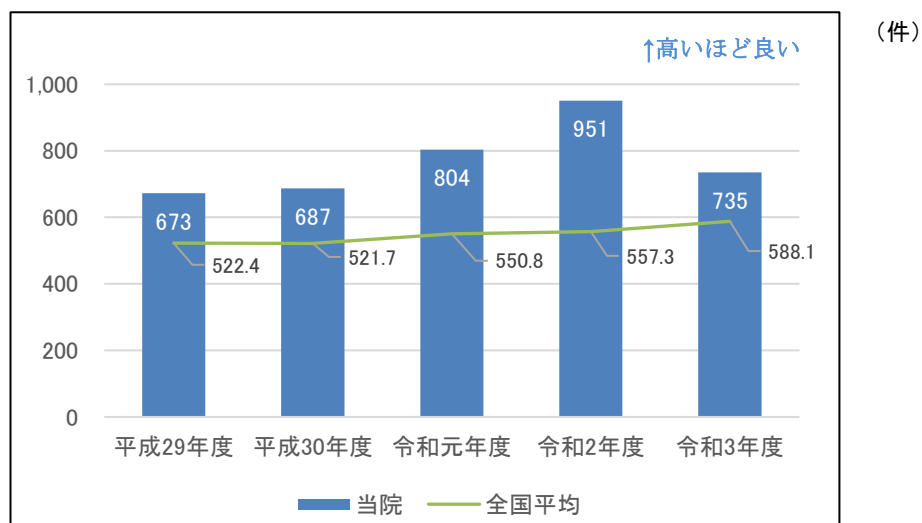


6 重症入院患者の手術全身麻酔件数

○項目の解説

「項目2 手術室内での手術件数」や「項目4 手術技術度DとEの手術件数」の難しい手術と同様、心臓の働きが悪くなる心不全という疾患をもつ患者など、重症な患者の手術を行うことも国立大学附属病院の社会的責任の一つといえます。重症な患者に全身麻酔をかけて手術する場合は、生命の危険をはじめ様々な危険が伴います。従って、手術中のみならず手術前後で十分に患者を観察し、慎重な麻酔を行える体制が必要になります。この指標は、麻酔管理の難しい重症患者の手術に必要な麻酔に対応する能力の高さともいえます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

重症入院患者の手術全身麻酔件数は、過去5年間でおよそ600件台から900件台へと大幅に増加しています。特に令和2年度は、前年比18%増加して951件の重症症例を取り扱っており、手術全身麻酔件数の総数は4,000件を大きく超える状況です。総数に対する重症患者の割合は、およそ15-20%で、本院での重症患者の取り扱いが高い状態で維持されていることが伺えます。超音波ガイド下末梢神経ブロック法を施行して全身麻酔薬の必要量を減じ、患者への負担を軽減させて手術を完遂できた症例なども多く、周辺地域の病院では、設備・技術的に全身麻酔の対応が困難な患者の受け入れを、旭川医科大学病院が継続的に行っていることを示す結果であると評価しています。

○定義

DPC データを元に算出した、医科診療報酬点数表における、「L008 マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔(麻酔困難な患者)」の算定件数です。

○算式

実数